

創立 93 年 広島国際学院 報

建学の精神
教育は愛なり

第 112 号

令和 2 年 11 月号



実りの秋、中学生が稲刈りを体験（百踐鎌磨授業）

目次

理事長就任挨拶	1
特集 大学の学友会活動	1
大学の新型コロナウイルス感染症対策	2
工学部	2
情報文化学部	3
専門学校・短期大学部	4
中学校・高校から発信	5・6
特集 高校クラブ活動	7

大学の学友会活動

工学部

情報文化学部

専門学校・短期大学部

中学校・高校から発信

高校クラブ活動

広島国際学院

検索

理事長就任挨拶

広島国際学院理事長 森崎 恒夫



令和2年9月3日の本法人理事会にて、第8代理事長を拝命いたしました。就任にあたり責任の重さを痛感しております。

世界が新型コロナウイルスの脅威にさらされ、我々の生活や教育の在り方が大きく変わる中、様々な制約を受け一方で新たな教育の方向も見えてきつつあります。オンラインでの授業はまさに未来の教育のスタイルとして今後認知され、働き方についてもテレワーク、リモートワークなどのスタイルがいつそう導入されていくことでしょう。

そのような中で、大学・短大・専門学校・高校・中学と学ぶ深さや教育の視点は全く異なりますが、教育機関に携わる我々の使命は、人間社会にとって有益な、より完成された人材を多く輩出することだと私は考えます。この人間教育を柱に、前理事長の意志を継承しながら、学院のさらなる改革に努めてまいり所存でございます。今後とも皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

特集 大学の学友会活動

第53期 広島国際学院大学学友会会長 平本 敦士
(現代社会学科4年 広島国際学院高校出身)

来年の高城祭に向けての取り組み

私たち学友会は、在籍メンバーで高城会という会議を開いています。残念ながら今年(2020年)の高城祭は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止となりましたが、来年の開催を目指し、現在分かっている課題の対策案、改善案などを話し合っています。今季はすでに2回の会議を行いました。

例えば課題の一つとして、学友会メンバーの人数不足が挙げられます。来年の高城祭開催時には現4年生は卒業していますので、現2年生、3年生しかいません。また、その2学年は共に来年には就職活動を行っています。対策として、スケジュールをしっかりと立て、学友会メンバーでそれぞれを把握し



来年の高城祭に向けて議論を重ねる

ていき、高城祭開催に向けての準備と就職活動を両立していくことなどが提案されました。

来年の高城祭に反映させるべく、学生に対し、昨年の高城祭についての感想や、新たな演目など希望を調査するアンケートをメールで配布する予定です。またサークル数が減っているため、一般の学生からもバザー出店を募集することを考えています。学生のアイデアも取り入れ、高城祭を盛り上げていきたいと思えます。

学友会行事への新型コロナウイルスの影響

学友会本部の行事として、広島県赤十字血液センターのご協力のもと定期的に本学で行っている献血や、本学近辺の清掃活動であるACC(Area Clean Campaign)を延期しました。また文化局では1月に、中野東駅のロータリーで地域の方々(ほこり会の皆さん)とお餅をつけて配布する行事「もちつき大会」を予定していましたが、延期することになりました。

一方、体育局は10月31日に球技大会を開催しました。学生支援課の方々と感染予防対策を立て、イベントを行う上で国が定めている基準を参考に参加人数を調整しました。入念な準備の甲斐あって、久しぶりの楽しい催しとなりました。

学生の活躍

競泳 2020 中四インカレ大会 中島杯を獲得

コロナ禍の最中ですが感染防止策を取ったうえで開催された競技会もあり、本大学の学生が好成績を収めています。

水泳部は9月6日、山口きらら博記念公園水泳プールにおいて開催された「第51回中国四国学生選手権水泳競技大会 兼 第50回中国四国国公立大学選手権水泳競技大会」に参加しました。



中島杯を持つ升本さん

その中で、情報デザイン学科3年の升本晴也さん(広島県瀬戸内高校出身)が男子200m個人メドレーで3位、そして男子400m個人メドレーにおいて1位となり、中島杯を獲得しました。今年で創部30周年の節目を迎える本学水泳部にとって嬉しい結果となりました。升本さんは「中島杯を獲得した事は素直に嬉しく思います。しかし、タイムなど自分自身で納得できない部分が多くそれらを今後の課題として来年につなげていきたいと思えます」と感想を述べていました。

大学の新型コロナウイルス感染症対策 ―学生の安全・安心を最優先に―

感染拡大防止に注力 未だ収束の見えない新型コロナウイルス感染症について、本大学では、新型コロナウイルス感染症対策会議を中心に感染症対策を講じています。対策の内容は、国や広島県からの通知・情報をもとに、感染症対策のマニュアル等の作成、手洗い・マスクの着用、体調管理（毎朝の体温測定など）などの基本的感染症対策の徹底、3つの密（密閉・密集・密接）の回避、感染者等が出た場合の対応の取り決めなどです。

特に、6月からは、登校しての授業を開始しましたが、授業はオンライン授業と併用して行い、机の間隔の確保やドアノブ等の消毒、換気などを行っています。後期（10月以降）においても、感染予防策を徹底してまいります。

経済的支援で学生を後押し 経済的影響を考慮した支援策も行っています。国の支援策に加え、本大学独自の支援策として、令和2年度前期学費の納入を最長8月末まで延期しました。また、後期学費について一律3万円を減額するとともに、一定の要件を満たす場合には、さらに後期学費の1/4を免除する支援策を講じました。こうした国や本大学の支援策は、6月に「“学びの支援”緊急パッケージ」として、案内したところです。こうした経済的支援とともに、学生が安心して学修できるよう、今後とも、学生との面談や学生からの相談等を通じて、しっかりと支援を行ってまいります。

「With・コロナ」の授業を実施中

新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない中、本大学でも「With・コロナ」の授業を続けています。

現代社会学科では、必修科目「社会学理論Ⅰ」の受講生が70名を超えているため、



パソコンを使ってゼミ生と対話を行い、卒論指導を行っています。

大学最大の教室で社会的距離を確保しながら対面授業を行っています。入口の扉と半分の窓を開放して換気に努め、全員マスクを着用し、受講生は前後一列ずつ空けて着席し講義を聞いています。担当の小林裕一郎講師は、「やはり、やりにくいですね。でも、最善を尽くして頑張っています」と前向きに話していました。

一方、山本昌弘教授は、「社会学演習Ⅰ」及び「社会学演習Ⅱ」をオンラインで行っています。グーグルの「ミート」というソフトを使い、卒業論文作成について指導しています。ミートは文書も表示できるので、ゼミ生がまず文書を用いて卒業論文作成の進捗状況などを発表し、山本教授はそれに対し感想を述べ、アドバイスします。山本教授は「時々、音声が届かないのでやりにくいです。でも頑張ります」と、こちらも前向きでした。



大きな教室で社会的距離を保ち、対面授業が行われています。

工学部



研究室紹介

熱の高効率利用により循環型社会実現へ貢献する

工学部 生産工学科 黄樹偉 研究室

大量生産・大量消費・大量廃棄型の現代社会を支えているのは、石油などの化石燃料をはじめとする天然資源の大量消費です。化石燃料は主に燃焼を通して熱の形で利用されるため、熱の利用効率を高めれば、化石燃料消費量が少なくなり、地球温暖化ガスの排出量も少なくなる、一石二鳥の効果があります。そこで黄研究室では熱エネルギーの高効率利用を目的に以下の研究を行っています。

1. ガソリンエンジンの熱効率を高めるためのエンジン内の燃焼過程の解明と、新しい燃焼技術の研究開発です。そこでは、シュリレン写真撮影法、無電源静電探針法など種々の手法により予混合乱流火炎の構造解明と、成層燃焼、希薄燃焼などの新しい燃焼技術の研究開発を行ってきました。

2. スターリングエンジンの研究、設計、製作および利用に関する研究です。そこでは、スターリングエンジンの熱効率の解析と出力仕事の最大化の研究を行っています。また、スターリングエンジンを実際に設計・製作し、これを利用した小型熱・電力併給システム（CHP）を製作し、高い熱利用効率を実証しました。



小型熱・電力併給システム（CHP）

イベントチラシデザイン —安芸区民文化センターから依頼受け クラシックから工作教室まで—

毎年、情報デザイン学科では、安芸区民文化センターからの依頼により、コンサートや子供工作教室など、様々なイベントチラシの制作に取り組んでいます。

年10回開催される「あきクラシックコンサート」のチラシは、ディスプレイデザインの授業課題で制作され、コンペ形式で選抜されます。本年度は、4年竹清ひかりさん（広島国際学院高校出身）のデザインが採用されました。デザインはト音記号と音符をベース

に、季節が感じられる色や様々なモチーフで構成されています。

「和太鼓」イベントチラシは3年生3人がデザインに取り組み、3年畑中さくらさん（広島国際学院高校出身）のデザインが採用されました。和を意識した斜格子内に写真を配置し、和太鼓の勢いを連想させるようなフォントを使用しています。

「人形劇」のチラシは、4年流田安由美さん（広島国際学院高校出身）がデザインしました。小学校低学年までをターゲットにしているため、楽しさや可愛らしさを表現しています。

本年度は、コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止になりましたが、秋以降に行われるイベントは開催予定です。学校や様々な施設でチラシを見かけることができますと思います。ぜひ手に取っていただき、各イベントにご参加ください。



和を意識し、力強い印象を残す「和太鼓」イベントチラシ



子供向けに愛らしく楽しいデザイン「人形劇」チラシ

PICK UP!

学生デザイン「上下そると」シリーズ商品化 —売り上げ好調、レシピも考案—



左から「上下葉っぱそると」、「上下トマトそると」、「上下柚子そると」、「上下野草そると」



レシピカード制作のため、調理や撮影を行う松原さんたち

2月に行われる卒業選抜展で展示されますのでご覧ください。

「上下そると」は、新聞やテレビなど多くのメディアで紹介され、入手困難な状態が続いているようです。ネット販売もされていますので、ぜひ検索してみてください。

情報デザイン学科の学生が制作したパッケージデザインが商品化されました。広島県府中市上下町の商工会女性部の製造する野草そるとシリーズ「上下野草そると」、「上下トマトそると」、「上下柚子そると」につづく第4弾「上下葉っぱそると」が発売中です。

「上下そると」シリーズのパッケージデザインは、上下町商工会との連携により、本学科の学生が制作したものです。「上下野草そると」は卒業生の松原沙季さんが制作し、それに続く「上下トマトそると」「上下柚子そると」「上下葉っぱそると」のパッケージデザインを4年松原舞さん（基町高校出身）が制作しました。

デザインは、昨年10月に発売された「上下野草そると」のデザインイメージを引き継ぎ、シリーズ商品としての統一感を持たすため、水彩絵の具でそれぞれの野菜などを描き構成しています。

さらに、パッケージデザインをもとに、販売促進用のレシピカードの制作にも取り組んでいます。それぞれの「上下そると」にあったレシピを自分たちで考え、調理や試食、料理の写真撮影を行い、完成に向けて頑張っています。



「上下野草そると」を使った料理のレシピカード

専門学校・短期大学部

実習設備を寄贈 —タイヤバランサー、アンフィニ広島より—

株式会社アンフィニ広島様は会社創業 60 周年の記念事業として、自動車整備士育成教育機関対象に教材の贈呈事業を行っています。本学にもお話があり、タイヤバランサーをお願いしたところご快諾いただき、5月28日に贈呈式を行いました。アンフィニ広島様からは、土田代表取締役社長様、橋岡取締役様、泉取締役様、浅木課長様の4名が来校されました。式では、土田代表取締役社長様から贈呈機材の目録をいただき、本学からは感謝状をお渡ししました。

土田代表取締役社長様からは、在校生並びに、今後自動車整備を学ぶ学生に使っていただきたいとお言葉をいただきました。式終了後、タイヤバランサーを設置した実習場に場所を移して実際の状態をご覧いただきました。

土田代表取締役社長様を始めアンフィニ広島の皆様に深く感謝いたします。贈呈された機材を活用し、今後とも整備士の育成に励んでまいります。



タイヤバランサーの設置状況を確認する土田代表取締役社長(右)。左は知名校長

PICK UP!

専門学校スペシャルオープンキャンパス

6月から8月にかけて、上瀬野キャンパスにおいて、4回にわたりスペシャルオープンキャンパスを開催しました。

スペシャルオープンキャンパスは学校説明に加え、学内見学コースとエンジン、バイク、シャシの体験コースを用意しています。さらに、乗用車や大型車のディーラーの方々をお招きし、整備の現場からの職業説明をしていただく構成になっています。

6月20日には広島トヨペット株式会社様が同社の高級車「レクサス」、「スープラ」を、7月26日にはトヨタカローラ広島株式会社様が最新型の「ハリアー」と最高級車「クラウン」を展示くださり、参加者の目を釘付けにしました。8月1日は大型トラックの双壁をなす広島日野自動車株式会社様といすゞ自動車中国四国株式会社様が、それぞれダカールラリー出場車と新型モデルの「ギガトラクター」ヘッドを持参され、迫



広島トヨペットによる説明会



最高級車の乗り心地を体感



圧倒的な迫力のダカールラリー出場車



いすゞ自動車の整備士に手ほどきを受け、タイヤの付け替え作業を体験

力のある展示をしていただきました。

8月23日には軽自動車をはじめとする小型車の雄、株式会社スズキ自販広島様が、人気車両「ハスラー」と「ジムニー」の2台を展示にお持ちくださいました。

展示された車両は参加した生徒さんや保護者様が実際にエンジンをかけたり、運転席に座ったりでき、普段できない体験をしていただきました。また、各企業様は扱っている車両を整備するうえでの特有の問題点などをお話しくれました。

それぞれのスペシャルオープンキャンパスに参加いただいた生徒さん、保護者様からはいろんな体験ができたこと、本学の広さ、充実した設備などに高い評価をいただきました。



急坂を登るジムニーの体験試乗

中学校・高校から発信

高校オープンスクール



異例のオープンキャンパスも在校生の活躍で成功

9月21～22日の2日間で、高校のオープンスクールを開催しました。コロナ禍の中での開催のため、コロナウイルス対策として、本年度は1時間半での学校案内を6部編成でさせていただきました。大変制限されたオープンスクールではありましたが、2,320名の中学生・保護者の皆様をお迎えし、高校の魅力を伝えてい



受付には飛沫防止シートと消毒液も備えた

きました。ホールでの生徒によるコース紹介動画の上映をはじめ、体育館での学校紹介の発表、校内見学など、生徒が主体となって盛り上げることができました。中学生の皆さんには4月から、ぜひ本校の制服に袖を通し、KOKUSAIの仲間になってほしいと思います。

国際模試



本試験さながらの緊張感で試験に臨む参加者

10月4日、2020年度の「国際模試」を実施しました。例年、高校受験シーズンを控えたこの時期に本高校の入試レベルを体験していただく公開模擬試験です。

今回は新型コロナウイルス感染症が懸念される中、700名を超える生徒さんから参加の申し込みをいただき、感染防止策を徹底したうえで模擬試験を実施しました。生徒さんは「国語・数学・英語」の3科目を本番同様の条件で受験し、入試の雰囲気を経験しました。

終了後には模範解答用紙を配付しました。受験希望者の皆様には、本高校の傾向と対策をつかみ、課題を克服して本試験に臨んでいただきたいと思います。

コロナ禍の中で私達を繋いだ授業 —オンライン授業—

高校 普通科1年1組 渡邊 和珠 (楠那中学校出身)

私たちは、コロナによる休校期間中にオンライン授業やオンラインHRを行いました。入学してすぐ休校となったため、授業についていけないか、新しい友達はできるかなど、多くの不安がありました。でも、授業やHR、個人面談を通して、画面越しでも意見を交流させ繋がり合えるということを知りました。貴重な体験ができ、クラスの団結力も強まったと思います。来たる大学受験に向けてより一層大切な仲間と共に頑張ります。



モニタに映し出される授業

中学校1年 松本 七海 (熊野第四小学校出身)

私は、初めてオンライン授業を受けました。入学して数回しか学校に行っていないにもかかわらず、なじみのないオンライン授業を受けることは私にとってとても緊張感のある授業となりました。

オンライン授業を受けて思ったことは、学校で授業を受けたいということです。友達と意見が共有できないなど、慣れない中大変でした。オンライン授業を受け、改めて学校が大切だと実感しました。そして授業動画やオンラインという授業の受け方があり、とても便利な社会になったと思いました。

今回のオンライン授業で時代の流れにそったネット社会の便利さと、学校の大切さを学びました。



授業には「ミート」を活用



感染防止のためフェイスシールドを着用

2020 年度 広島国際学院中学校 OPEN DAY

本校では今年度も「OPEN DAY」を開催し、小学生や保護者の皆様にお越しいただきました。コロナウイルス対策として、環境整備や「3密」を防ぐ人数制限に取り組みました。

第 1 回目となる「夏の OPEN DAY」は 6 月 28 日に開催しました。保護者様には、本校の教育内容や入試概要、受験における学習ポイント、在校生や保護者の方の体験談を報告し、小学生の皆様には、国語・算数・理科・社会の授業を体験してもらいました。

10 月 10 日には第 2 回「秋の OPEN DAY」を開催しました。体験授業に加え、本校 1 期生による『百錬錬磨』実践報告、カフェテリア「サクラテラス」でのランチ体験など、皆様に中学校の気分を味わってもらいました。夏秋いづれも体験授業は自分で考え行動し、学びを共有する活動を行い、在校生には小学生のサポートをしてもらいました。



小学生をサポートする生徒

百錬錬磨



茶道を通じて作法を学ぶ生徒たち

茶道 中学校 2 年 伊野 結華 (南観音小学校出身)

私は、初めて茶道を体験しました。初めは茶道というと、お菓子やお茶をいただくだけだろと思っていました。しかし茶道を体験してみると、「和敬清寂」という互いに仲良く尊敬しあい、清らかな心や動じない心を持つとうという教えに基づいていることがわかりました。一つ一つの作法にも意味があると思うと、途端に面白く思えて、色々な作法を体験してみたいなと思いました。また、茶道の良さや楽しさを、より多くの人に知ってもらいたいです。

プログラミング 中学校 2 年 壺反田 晃佑 (矢野小学校出身)

僕はスクラッチやマイクロビットを使い、プログラミングをしています。プログラムを一つでも間違えると、自分が思うものとは違う作品になってしまい大変ですが、一つ一つ乗り越えできた時はすごくうれしく、達成感があります。僕はプログラミングが好きなので、今後また開講される時は、良い作品を作りたいです。是非皆さんもプログラミングをやってみてください。



論理的思考力も養うプログラミングの授業



苦勞した分、収穫の嬉しさはひとしお

稲刈り体験とコメ作り振り返り学習

10 月 2 日、さわやかな秋晴れの下、中学校 1・2 年生が稲刈りを体験しました。鎌の扱いにも一苦勞の 1 年生を、経験者の 2 年生が指導する場面もあり、生徒も教職員も汗だくで無事収穫を終えました。

翌日には各学年で振り返り学習を行いました。1 年生は 6 月の田植えの際、苗の植え方に変化をつけており、植え方によって生育状態やモミの付き方などにどんな違いが表れるか観察し結果をまとめました。2 年生は刈り取った稲を下から 20 cm ずつ切り分け、稲穂や茎、葉などに分けて重さを測定しました。稲の構造を細かく調べ、層別刈り取り法を実践していました。

収穫した稲は乾燥・脱穀を経てようやくお米になります。毎日何気なくいただいているお米ですが、食卓に並ぶまでにはたくさんの苦勞を要します。農作業の大変さと食物の大切さを実感する体験授業でした。

高校クラブ活動 —コロナ休校も希望を持ち継続—

《休校期間の取り組み —オンライン部活—》

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、外出自粛要請により本高校も一時休校を余儀なくされました。休校期間中はクラブ活動も難しい状況でしたが、様々な制約の中で工夫を凝らし活動を続けてきたクラブもあります。

吹奏楽部は顧問教諭の発案で、部員が自宅などで撮影した演奏動画をつなぎ合わせる「リモート合奏」を配信しました。動画を視聴した人からは「元気が出た」「感動した」との感想が寄せられ、コンクールやコンサートなど発表の場を失った部員のモチベーションも上がりました。

陸上部（短距離ブロック）は、オンライントレーニングを実施しました。トレーナーの指導の下、部員はストレッチなどを行いました。モニタ越しとはいえ、仲間の顔を見ながらトレーニングすることで、部員の体力・意欲の維持向上に役立ちました。

空手道部は「インスタグラム」や「zoom」などネット環境を駆使した「ライブ練習会」を開きました。部員は講師が動画配信した組手や型などを見て練習に打ち込みました。また、空手の技をアレンジした課題「お家チャレンジ」を部員に課し、部員から寄せられた動画をフェイスブックに公開するなど、意欲的に活動していました。



代替大会に出場した陸上競技部

上記のような各クラブの取り組みは「オンライン部活」としてテレビや新聞にも取り上げられ、話題となりました。

《登校再開、躍動する生徒たち》

自粛期間を終えて学校は6月から通常授業に戻り、クラブ活動も感染防止の徹底を条件に再開しました。主な競技大会が中止や延期を強いられる中、無観客など安全対策に留意した代替大会が行われ、好成績を挙げた生徒もいます。

広島県高校総体代替大会では、7月11～12日、18～19日の4日間行われた陸上競技の男子800メートルで西川正飛さん（普通科2年10組 東広島市立高屋中学校出身）が2位に、男子5000メートルでは笹木恵斗さん（総合学科3年2組 呉市立阿賀中学校出身）が3位に入賞しました。8月1～2日に行われたソフトボールでは、男子が準決勝まで進みました。

9月5～6日には広島県高等学校新人陸上競技選手権が開催され、男子400メートルと800メートルで西川正飛さんが1位に輝きました。また、男子3000メートル障害でも有田光希さん（普通科2年11組 広島市立高取北中学校出身）が1位を獲得しました。

吹奏楽部も8月30日、延期されていた定期演奏会を行いました。感染予防のため入場者は限られましたが、演奏会の模様を動画投稿サイト「YouTube」でライブ配信しました。

空手道部は通常の部活に戻り精進を続ける傍ら、小学生や中学生対象のクラブ体験「オープン練習会」も行っています。一方、大会中止で出場機会なく引退する3年生のため、練習成果発表会を開いてライブ配信するといった情報技術の活用も続けています。

空手道部は男女共に高い目標に向かい日々練習しています。空手道部に入って、生活習慣や人との付き合い方が良い方向に変わりました。初心者、経験者関係なく、毎日部活動に打ち込んでいます。指導者の先生方も教える的確で、空手に関するだけでなく、日常生活においても気付くことは沢山あり、毎日充実しています。精神的にも肉体的にも強くなれる場であると同時に、将来に必ず生きる人間力を養える場であると思います。

鈴木 智菜さん（普通科2年1組 海田中学校出身）



大会中止にもめげず前進する空手道部

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。

発行/学校法人広島国際学院 法人本部

住所/〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目20-1 電話:(082)820-2345